

*災害発生の場合、速やかに電話・メール等により(口頭)報告
 *災害発生後、翌日中に「事故・災害・事件報告書」(第1報)にて報告
 *災害発生後、1ヶ月以内に本様式(第2報)にて詳細報告

社長	常務	安全環境部		総務部		事故発生箇所	
部長	課長	部長	課長	部長	課長	責任者	担当者
							

社員・協力会社 死亡・休業・不休業 災害報告書(第2報) 2020年2月5日

発生生社名		事業所名		発生場所				発生原因	
浜辺工業		有明機電工業㈱新港町製缶工場		新港町工場製缶工場				(人的)	
年(西暦)		発生日月(曜日)時刻		作業の種類				発生原因	
		2020年 1月 21日 (火) 09時 20分頃		定常作業 点検作業 修理作業 建設工事 異常処理作業 突発作業 定修工事 臨時作業				危険物(鋭利な端材)確認不足	
被災者	所属	電気装置事業部製造課		作業の形態				(物的)	
	氏名	被災者A	年令	45	性別	男	女	端材の鋭利な突起	
	勤続年数	19年 2ヶ月		単独作業				切断品取り出し口に入りこむ機械構造	
	作業経験	19年 2ヶ月		共同作業				(管理的)	
	(構内経験)	年 月		<発生状況図>				端材の取り扱いで細かく破砕した。	
	傷病名	右小腿裂傷、腓腹筋断裂(2週間)		(発生箇所)製缶工場シャーリング装置裏側 右足を踏み入れた状態				対策 (人的) 作業する場所に危険な状態が無いかのチェックを行う。 手元・足元の注意を行い作業をする。	
災害の概要		シャーリングで切断したSUS端材をしゃがみこんで拾い集め、立ち上がった時に鋭利なステンレス端材が右足ふくらはぎに刺さった。(端材が立った状態だったと思われる)							
災害状況		8:00 製缶工場(作業場)において、製缶グループ(10名)のミーティング(KY及び作業内容の確認等)を実施。 9:00 ステンレス鋼板をダレットパンチプレスで自動加工中に機械動作不良により異常停止した。 9:05 被災者Aは、同僚2名とともに機械より未加工のステンレス鋼板を取り出し使用できる製品部を取り出した。 9:10 被災者Aは、同僚2人で不要になった鋼板(製品取り出し済)をシャーリング(切断機)に運び加工していない部分を残すため製品抜出部分を一人で後片付けができるサイズ(30cm間隔)で切断し、使用できる端材を端材置き場に保管した。 9:15 被災者Aは、細かく切断した端材を片付けるため機械後部の受け部分に入りしゃがんで端材を集め、立ち上がった時に右足ふくらはぎに鋭利な端材が刺さっていることに気づき端材を自分で抜いた。 9:20 被災者Aは、集めた端材を指定の置き場に処分後傷の状態を確認したところ、出血がひどいため同僚に連絡し関係各所に連絡後、病院にて受診(大牟田天領病院9:30頃着)。 ※2月5日に退院。							
				突き刺さった端材 (厚さ2mmで鋭利な状態)				(物的) 機械の中に入りこまないように熊手のような治具を製作し使用する。 センサーライトを設置し、作業場付近を明るくした。 (管理的) 安全性を考慮して小さく切断しない。 シャーリング取り出し部分に注意喚起の表示を行う。	
								類災防止の視点 鋼材加工後は鋭利な刃物上になってしまうので、取り扱いには十分に注意する。	